

た。この連携が加速されることを期待するところです。
環境工学部門でご活躍された皆様をご紹介します。

功績賞 高野 靖 (京都大学・教授)
研究業績賞 戸井 武司 (中央大学)
技術業績賞 白井 正樹 (電力中央研究所)
優秀講演論文表彰 伊藤 藍也 (岐阜大学)
優秀講演論文表彰 杉田 航紀 (早稲田大学)
優秀講演論文表彰 田淵 聡 ((株)神戸製鋼所)
優秀講演論文表彰 張 偉辰 (東京工業大学)

フェロー賞 原田 航佑 (近畿大学)
フェロー賞 宮本 晶史 (岐阜大学)

永年のご功績、研究業績に対し受賞、おめでとうございます。益々のご活躍を祈念致します。

最後に、環境を維持しつつ経済を発展させる工学の役割は、「温故知新」から始まり、「幸せ」とは何かを追究する多重継承であり、本部門の発展を祈念します。

1) 気候変動に関する世論調査 (令和2年11月調査)
<https://survey.gov-online.go.jp/r02/r02-kikohendo/index.html>

部門賞 受賞者の紹介



環境工学部門功績賞を 受賞して

高野 靖
京都大学 工学研究科

7月に3年ぶりに対面開催された「環境シンポ」で功績賞をいただき大変光栄です。

私は建築分野での音響解析技術を学んだあと、1982年から(株)日立製作所で製品騒音の解析や制御に関する研究開発を行いました。環境工学部門の技術委員会では、企業や大学の諸先輩の方々からも、研究のヒントやアドバイスをいただき大変参考になりました。

おかげさまで機器の静音化に対し多少なりとも貢献できたのではないかと考えています。

しかし、昨年度の公害苦情調査を見ると、典型7公害に対する苦情は全体では減少しているものの騒音に対する苦情だけは増加傾向にあります。技術の進歩に伴い機器の騒音は減少傾向ですが、高齢化やコロナ禍による生活環境の変化に伴い、新たな音の課題も発生しているのだと思います。

5年前からは大学に移り「静粛環境工学」の講義を行っていましたが、今年の3月に定年を迎えます。高齢者の仲間入りをしますが、今後も、自分自身の問題として騒音問題の改善にむけた議論を皆さまと継続させていただければと思います。



環境工学部門研究業績賞を 受賞して

戸井 武司
中央大学 理工学部

この度は、環境工学部門より研究業績賞を頂戴し、大変栄誉なことと恐縮しております。ご推薦頂きました方々に厚く御礼申し上げます。また、これまで研究活動にご協力およびご支援頂きました皆様には感謝に堪えません。

不快な騒音を快適な音に変える快音設計や、快適かつ機能的な環境を創生するスマートサウンドデザインを評価して頂いたことは身に余る光栄です。音は我々の生活に常に存在していますが、悪者としてモグラ叩きのように低騒音化されることがあります。しかしな

がら、料理の旨味成分に相当する無くてはならない貴重な情報音の削減や、バランスの欠如などが生じて、生活が不快や不便になることがあります。そこで、機械音や環境音をマイナス要因でなく、逆転の発想でプラス要因として活用する快音化が有益な手段となります。

近年、製品のコモディティ化が進み、製品価値を訴求するモノづくりから体験価値を訴求するコトづくりへと進展しています。五感の聴覚に作用する音響は、いつの時代も昼夜を問わず感性に与える影響は大きく、適切な活用が求められます。今後も未知なる可能性を秘めた音響について、環境工学部門の講習会や子供向けイベントなど育成の場で魅力を伝え、また多面的な視点で新たな研究活動に邁進する所存です。皆様の更なるご指導およびご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



環境工学部門技術業績賞を 受賞して

白井 正樹

一般財団法人 電力中央研究所
サステナブルシステム研究本部

この度は、栄えある環境工学部門研究業績賞を賜り、大変光栄に存じます。今回の受賞では、電力設備での活用を目的とした鳥類撃退システムの開発に関する一連の研究について高い評価を頂きました。

電気事業や鉄道事業における鳥類起因の停電事故、あるいは航空事業における鳥類衝突など、鳥類との軋轢は社会インフラの信頼性向上にとって大きな課題となっています。しかし、鳥害対策技術について定量的

に効果を評価された例は乏しく、その有効性を把握することは困難でした。そこで当所では、野生のカラスを学術捕獲し、聴覚・視覚機能の把握やケージ内での逃走行動の観察から実験的に対策技術の効果評価を試みてまいりました。また、評価したシステムを実設備などに導入することで、現場実装に向けた改良にも取り組んでまいりました。

今回の受賞は、課題解決に向けてご協力いただいた多くの方々との共同の成果であると考えております。この場をお借りしましてお礼申し上げます。

今回の受賞を励みに、対策技術の現場実装に向けて更に研究を前進させていくとともに、新たな技術開発についても検討していく所存です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

